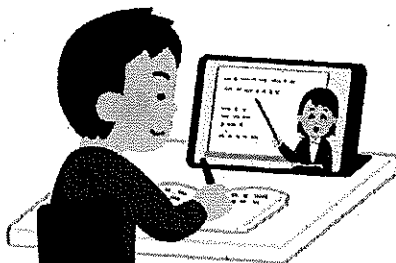




令和7年度

学習の手引き

1年生



津市立東橋内中学校

目次

はじめに	 1
1. 中学校の勉強について	 1
2. 家庭学習、家庭学習習慣について	 2
3. 学習評価について	 3
4. 勉強の仕方、ポイント、アドバイス	 5
5. なぜ勉強する必要があるのか	 6
6. 東橋内中学校独自のインターネットを活用した授業について ..	6
特別活動について、特別の教科道徳について	 7
シラバス	
○国語科	 8
○社会科	 10
○数学科	 12
○理科	 14
○外国語科	 16
○技術・家庭科(技術分野)	 19
○技術・家庭科(家庭分野)	 21
○保健体育科	 23
○音楽科	 25
○美術科	 27
○特別支援教育について	 30
○国際教室について	 31
終わりに	

0. はじめに

中学校の学習では、生徒が将来自立した社会人として自分の人生を主体的に歩いていくための基礎となる「学力」*1を育みます。その中、文部科学省より2021年度4月から改訂学習指導要領が全国一斉に実施されることになりました。この改訂により、今までと学習内容と学習評価が大きく変わりました。また、本校では、生徒の潜在的な可能性を見つけ育み、未来を自分の力で切り拓いていける生徒の育成を目指しております。

このことから、改めて東橋内中学校の学習活動、学習評価について保護者の皆様や生徒の皆さんと共有し、生徒一人ひとりにあった適切な指導、評価をしていきたいという思いで本書を作成いたしました。

*1 「学力」とは、教科の知識や未知の問題に対して継続的に解決する力等のことです。

1. 中学校の勉強について

中学校の教科は、国語、数学、社会、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語の9教科10科目となります。小学校よりも科目数が多くなり、内容もとても難しくなります。小学校に比べて進むスピードも速くなり、授業だけでは追いつかなくなります。そのため、家庭での「予習・復習」が大切です。例えば、「法隆寺」を見学する場合、何も学習せずに観に行くと、ただの古い建物としか思いません。しかし、前もって調べ学習をしておくと、「世界最古の木造建築物」や「聖徳太子が建築したこと」など事前に知識を入れて実際に見ることができるので、見方が変わってきます。これが、「予習」のすごさです。予習では、次回どのような内容を学ぶのか教科書などを通じて調べることで、予習しないで授業に臨むときとは異なる気持ちで授業に向かうことができます。

また、授業を受けた後、今回学んだことを自分なりに整理する時間として復習を行います。この授業では、どのようなことを学び、何が大切だったのかを行うのが復習です。この「予習・復習」を行うことで、「自分をコントロールする力（自己調整力、メタ認知）」を育てることができます。

家庭学習は自分との勝負になります。家庭では、ゲームをする時間などが自由にありますが、勉強する気持ちを持って取り組むことにより、自分自身をコントロールする力を身につけることができます。そのためにも毎日家庭学習を行う習慣を身につけることが大切となってきます。

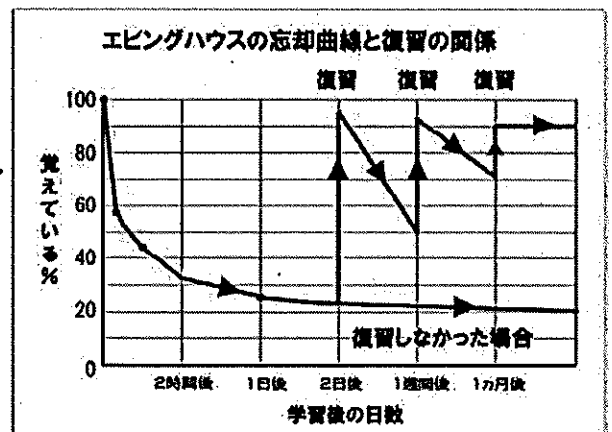
2. 家庭学習、家庭学習習慣について

学力を身につけるためには、「主体的に学ぶ力」が必要です。この力は、みなさん一人ひとりの学習計画に基づき、継続的に学習することによって身につけていく力です。そして、授業と家庭学習が一体となって自然と身につけていくものだと考えています。また、毎年中学3年生を対象に行われている全国学力学習状況調査によると、生活習慣と家庭学習習慣は生徒の正答率に影響していることが調査から分かってきました。このようなことから、子どもの学力を付けさせようとしたときに家庭学習やその習慣は不可欠なものとなっています。

Q.なぜ家庭学習をしないといけないのですか？

⇒ A.人は「忘れるのが当たり前」だからです。

- 家でもう一度勉強することで、忘れることを防げます。
- テスト前に一気に思い出すのではなく、毎日コツコツ思い出していく方が、学力UPの効果は上がります。



<保護者の方へ>

家庭学習の習慣は、お子さまの生活リズムを整えることにも効果を発揮します。

「毎日、〇時～〇時までは家庭学習の時間」と、家庭で設定することをお勧めします。



褒めることも大切



依存から脱けだそう

3. 評価について

令和3年度から学習指導要領が改訂され評価の観点が「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」

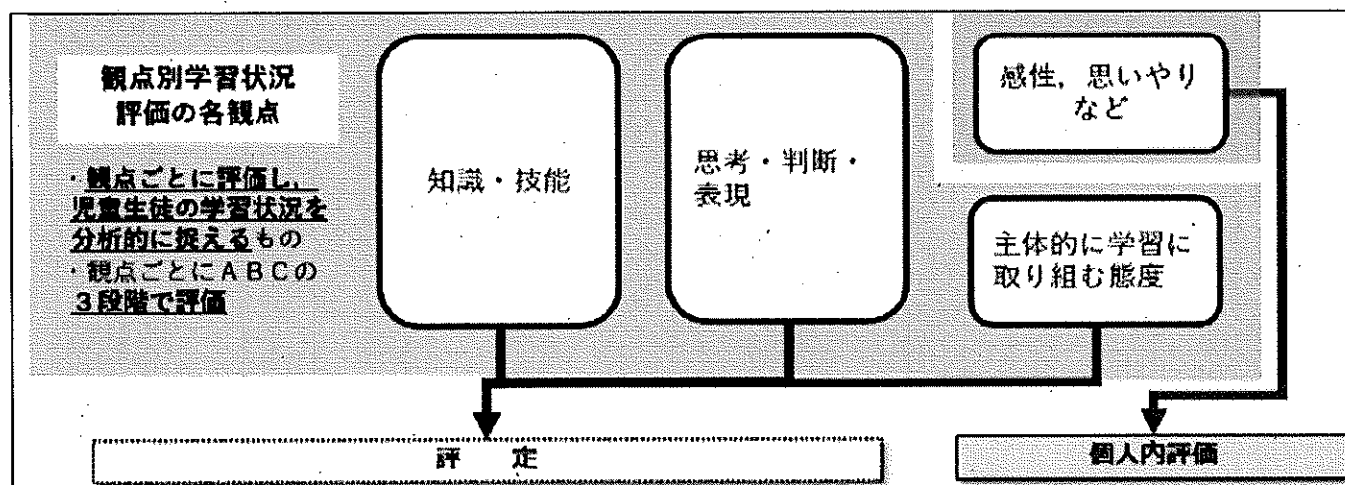
「主体的に学ぶ力」の3観点となりました。

「知識・技能」では、各教科等における知識及び技能の習得状況の評価します。

「思考力・判断力・表現力」では、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学ぶ力」では、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。また、それぞれの項目に対してA、B、Cの評価をします。

評価のイメージ図

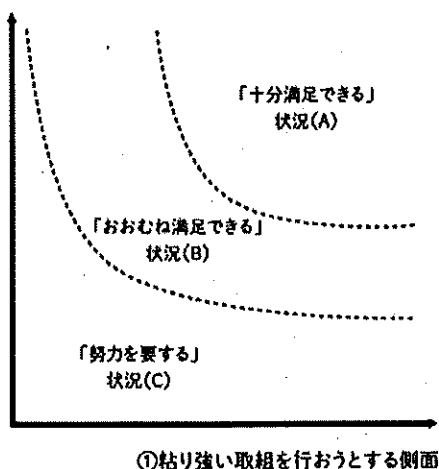


「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

① 粘り強い取り組みを行おうとする側面は、目標達成までやり抜く力を指します。

② 自らの学習を調整しようとする側面は、学習の目的を達成するために工夫することを指します。

② 自らの学習を調整しようとする側面



* 文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」

具体的な評価の一覧【通知表に載るもの】

観点別学習状況評価 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】	評 定
A:「十分満足できる」状況と判断されるもの	5:「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	4:「十分満足できる」状況と判断されるもの 3:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C:「努力を要する」状況と判断されるもの	2:「努力を要する」状況と判断されるもの 1:「一層努力を要する」状況と判断されるもの

具体的な評価の方法（あくまでも 1 例です）＊学習の内容によりパーセンテージは変わることがあります。

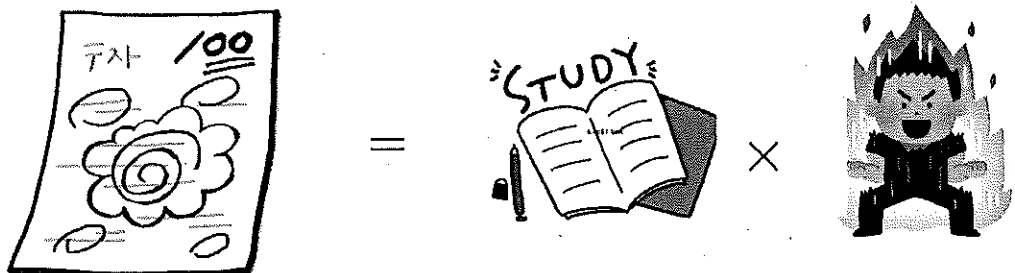
観点別学習状況の評価		学習の実現状況		評 定	
A	十分満足できる	A [○] (5点)	90%以上	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高い
B	おおむね満足できる	A (4点)	70～90%	4	十分満足できる
C	努力を要する	B (3点)	50～70%	3	おおむね満足できる
		C [○] (2点)	30～50%	2	努力を要する
		C (1点)	～30%	1	一層努力を要する

3 観点の合計得点	15 点 14 点	13 点 12 点 11 点	10 点 9 点 8 点	7 点 6 点 5 点	4 点 3 点
評 定	5	4	3	2	1

4. 勉強の仕方、ポイント、アドバイス

勉強の仕方に悩む生徒や保護者の方が多くいるように感じます。そこで、効果的な勉強方法について3つ紹介します。1つでも参考になればと思います。

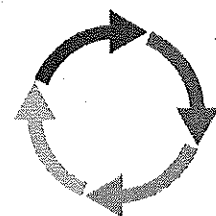
その1 ^{がくしゅうせい か} 学習成果 = ^{なに} 何を × ^{いよく} 意欲



最初に言えることは、勉強方法や勉強の仕方だけにとらわれていても成果は出ません。まず、あなたが、どんな気持ちで勉強に取り組むのが大事です。例えば、よい例としては、次のテストで100点を絶対に取りたい。前回のテストよりも10点伸ばしたい。授業をもっともっと理解したい。などが考えられます。逆に、めんどくさい、やらされている、早く終わりたい、などのマイナスの気持ちを持っていると結果もマイナスになってしまいます。

その2 ^{こと} 3つの異なるワークを1回するより、^{かい} 同じワークを3回解く ^{おな} ^{かいと}

勉強が苦手だけれども、少しでもできるようになりたい!と思う人はぜひこのことを実践してみてください。逆になぜこのことをしないのに勉強がわからないと言っているのかがいつも不思議に思っています。1冊の問題集を1回ただけでは、絶対に覚えることはできません。間違った問題を何回も解くことで理解が深まります。大切なことは何回も同じものに出会うこと。勉強も同じことが言えますよ。



その3 ^{べんきょうじ か ん} 勉強時間より ^{べんきょうりょう} 勉強量 ^お で ^き 終わりを決める

とにかくすぐに勉強に取り掛かるのもいいですが、まず、今日勉強する見通し(予定)を立てましょう。例えば、「この問題ができるまでやろう」や「15ページできるまでやろう」「ここまで終わらなかったら寝ない」という意志固めを最初にすることです。逆に、「〇〇時までやろう」というのは、とにかく時間さえきてしまえば終わってしまいますので、椅子に座っていたら時間がきて終わってしまいます。そうすると力はいっていないけど勉強した気持ちだけになってしまい、結果何の問題も解けなくなってしまいます。また、そうなってくるとだんだん勉強をさせられていると自分で認識してしまいます。常に、時間ではなく、勉強量で終わりを決めましょう。



5. なぜ勉強する必要があるのか

べんきょう い み じぶん ひょうげん 勉強をする意味①=自分らしく表現するため

あなたの人生は、あなた自身が組み立てて進んでいく道筋です。このことは、「自己実現」といい、あなたが将来やりたいこと、になりたい職業に近づくことをいいます。勉強することは、あなたがあなたらしい人生を送るためには、必要なことです。

例えば、「〇〇の仕事に就きたい」と言っているだけで、その仕事に必要な力が身につけていなかったとしたらどうでしょう？いつまでたっても、その職業には就けません。つまり、あなたが勉強しないと、「自己実現」できないのです。

べんきょう い み こうきしん しこうりょく ひょうげんりょく こうじょう 勉強をする意味②=好奇心や思考力、表現力の向上

勉強をする意味①でも、書いたように、「将来のために、自己実現のために、良い成績を取る」ということはあります。しかし、「テストで良い点数を取るためだけに勉強をする」ではありません。中学校で様々な教科を学ぶことには大きな意味があります。

(ア) 自分の興味関心がどこにあるのかを、自分で分析したり、その好奇心を自分で伸ばしたりする。

(イ) 課題を解決するための様々な考え方を学ぶことで、思考力を高める。

(ウ) 自分が学んだことや考えたことを相手に分かりやすく伝えることで、表現力を身につける。

これらのように、中学校の間に様々な教科に出会うことで、テストで点数を取る以上に大切なことを身につけることができます。

6 東橋内中学校独自のインターネットを活用した授業について

・一人1台タブレットが導入され、授業内でも調べ学習やタブレットを使用した授業が多くなります。各授業での使用方法につきましては各教科担任から指示があると思いますので、その指示を聞いて使用してください。またそれに伴って、「ロイノート」というアプリを利用します。課題提出や友人同士でのまとめ作業など様々な用途に使用できるアプリとなっております。
・e-Learning ポータルサイトでは、津市教育委員会からでている動画など自宅学習で使用できるサイトが上がっています。ぜひ、活用して自宅学習を充実するものにしたいと思います。

ログイン方法は授業内でお知らせした ID とパスワードをサイト内に打ち、ログインしてください。

ID とパスワードを忘れそうな人は下のところに書いておいてください。

ID: _____

パスワード: _____

特別活動について

特別活動とは、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質能力を育成することを目指す教育です。

【具体的な教育活動】

特別活動		
学級活動	生徒会活動	学校行事
・学級や学校の生活上の問題解決 ・学級内の役割の自覚 ・一人一人のキャリア形成	・生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 ・学校行事への協力 ・ボランティア活動などの社会参画	・入学式、始業式、終業式、終了式卒業式などの儀式 ・文化祭 ・体育祭 ・修学旅行 ・職場体験学習 ・ボランティア活動

道徳教育について

道徳教育は、よりよく生きるために、以下の4つの内容を学習し、人間としての生き方についての考えを深めることが目的です。

道徳教育の内容(年間35時間)
- A 主として自分自身に関すること - B 主として人との関わりに関すること - C 主として集団や社会との関わりに関すること - D 主として生命や自然崇高なものとの関わりに関すること

国語 1年生 シラバス

1 国語の目標

社会生活における人との関わりの中で、国語を正しく使って伝え合う力を高め、考えたり想像したりする力をつける。

2 国語を学ぶ意義

- ・知識や技能を身に付けることによって、生活の中にある言葉や文章を理解できるようになる。
- ・筋道立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力が身に付く。
- ・人との関わりの中で伝え合う力が高まり、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようになる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：日本の言葉の特徴や使い方（漢字・文法・慣用句・故事成語・ことわざなど）について理解することができる。 技能：話や文章に書かれている情報を正確に理解することができる。	A「話すこと・聞くこと」において、スピーチなどの活動で、今までの学習を生かして自分の考えを他者に分かりやすく発信することができる。また、他者の考えを大切に、相手が何を伝えたいのかを聞き取ることができる。 B「書くこと」において、作文や記述などの活動で、習った漢字や正しい文法を使って、他者に伝わりやすい文章を書くことができる。 C「読むこと」において、文学的文章では、さまざまな作品を読み、それぞれの人物の心情（気持ち）や作品の主題（テーマ）をとらえ、自分の経験と照らし合わせたり、他者の意見を聞くことで自分の読みや考えを深めることができる。説明的文章では、文章の構成や筆者の主張を読み取り、筆者の物事の見方を参考にしながら新たな見方・考え方をもち、自分の考えの幅を広げることができる。	日本の言語文化を大切にし、他者の意見を尊重しながらも自分の思いや考えを伝えようとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ① 粘り強さ 例：課題に対して、あきらめずに取り組むこと
例：自分の考えをさらに深めるために、友達に聞いたり、共に考えたりすること
- ② 国語を学ぶ意義 例：学習したことを実際の生活に生かそうとしていること
- ③ 自らの学習の調整 例：課題解決の過程を振り返って評価・改善をしようとしていること

5 国語の勉強アドバイス

- ① 学校で勉強した部分は、復習としてそのつどワークを自分で進めましょう。
- ② 漢字の学習は、予習としてどんどん自分で進めましょう。
- ③ 普段から、読書の時間を大切にしましょう。

国語 1年生 学習計画と評価規準について

【学習の年間計画】

学期	月	学習内容 (単元)	学習のねらい
1 学 期	4	◆オリエンテーション ○朝のリレー (詩) ○野原はうたう (詩) ・音声の仕組みや働き (言葉) ○はじまりの風 (物語) ◆図書館オリエンテーション (読書)	■詩 「朝のリレー」、「野原はうたう」、「空の詩 三編」、「大阿蘇」、「ぼくがここに」 ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 ・声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 ・表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 ・詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。 ・表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。
	5	・話の構成を工夫しよう (話す・聞く) ・漢字の組み立てと部首 (漢字) ○ダイコンは大きな根? (説明) ○ちょっと立ち止まって (説明) ・比較・分類 (情報)	
	6	・指示する語句と接続する語句 (文法) ・情報を整理して説明しよう (書く) ○空の詩 三編 (詩・解説) ○比喩で広がる言葉の世界 (解説) ・語彙を豊かに 心情を表す言葉	■小説、物語文、随筆文 「はじまりの風」、「大人になれなかった弟たちに……」、「星の花が降るころに」、「少年の日の思い出」、「二十歳になった日」 ・場面ごとの心情の変化を図などを使って整理している。 ・場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 ・戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解するうえで、読書が役立つことを理解している。 ・描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。 ・場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。 ・時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめている。 ・登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 ・随筆の構成や表現の効果について考えている。
	7	・さまざまな表現技法 (言葉) ・言葉のまとまりを考えよう / 言葉の単位 (文法) ・情報収集の達人になろう (情報) ○読書を楽しむ (読書活動) ◆読書感想文の書き方 (読書・書く)	
2 学 期	9	○大人になれなかった弟たちに…… (物語) ○星の花が降るころに (小説) ・項目を立てて書こう 案内文を書く (書く) ・聞き上手になろう (話す・聞く)	■説明文、解説文、記録文、意見文 「ダイコンは大きな根?」、「ちょっと立ち止まって」、「比喩で広がる言葉の世界」、「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」、「『不便』の価値を見つめ直す」 ・本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 ・「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 ・筆者の主張と事例との関係を整理している。 ・序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 ・文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。 ・各段落の役割を理解し、文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉えている。 ・筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。 ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。 ・必要な情報を選び、結び付けて、本文を要約している。 ・筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。
	10	・方言と共通語 (言葉) ・漢字の音訓 (漢字) ○「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ (記録) ・意見と根拠 (情報) ・根拠を明確にして書こう (書く) ・言葉の関係を考えよう / 文の組み立て (文法)	
	11	○大阿蘇 (詩) ○古典の世界 (古典・解説) ○いろは歌 (古文・音読) ○蓬萊の玉の枝 (古文)	■古文・漢文 「古典の世界」、「いろは歌」、「蓬萊の玉の枝」、「今に生きる言葉」 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。 ・文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。 ・訓読のしかたや漢文特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。 ・本文を読んで故事成語について理解したことに基づいて、自分の体験と故事成語を結び付けて考えている。
	12	○今に生きる言葉 (漢文) ○「不便」の価値を見つめ直す (意見) ・原因と結果 (情報) ・話題や展開を捉えて話し合おう (話す・聞く) ・研究の現場によくこそ (読書)	
3 学 期	1	○少年の日の思い出 (小説) ・単語の性質を見つけよう / 単語の分類 (文法)	■漢字・文法・語句 ・漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。 ・漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 ・漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。 ・例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。 ・文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 ・「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。 ・「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 ・日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変わることなどを理解している。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、具体的な言葉を挙げて指摘している。 ・共通語と方言の役割や特徴について理解している。
	2	・漢字の成り立ち (漢字) ○二十歳になった日 (随筆) ・構成や描写を工夫して書こう (書く)	
	3	・一年間の学びを振り返ろう (話す・聞く・書く) ○ぼくがここに (詩)	

社会科1年生シラバス

1 社会科の目標

広い視野で物事を見て、平和で民主的な世の中を築き上げるための知識・技術の基礎を身に付ける。

2 社会科を学ぶことの意義

- ・よりよい社会を築き上げるのは自分であるという自覚を持てる。
- ・自分を大切にし、他の人や異なる文化を大切にする心が持てる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：我が国の国土と歴史や現代社会の政治、経済、国際関係に関する事柄を理解する。 技能：社会的事象について調べ、まとめることができる。	思考：社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することができる。 判断：社会に見られる課題を把握し、解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断することができる。 表現：自分がわかったことや、疑問点などを友達や先生にわかりやすく伝えることができる。	世の中の様々な事柄について進んで学習し、よりよい社会の実現に関わろうとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ①粘り強さ(例):社会科の課題を粘り強く考え、あきらめずに解決しようと取り組むこと。
(例):自分の考えを更に深めるために、友達の意見も聞き、一緒に答えを導き出すこと。
- ②自らの学習の調整(例):課題解決の過程を振り返って評価・改善をしようとしていること。
- ③社会科を学ぶ意義(例):社会科で学んだ事柄を次の学習や実際の生活に生かそうとしていること。

5 社会科の勉強アドバイス

- ①授業で学んだことをワーク（問題集）を使って何度も復習しましょう。
- ②暗記するだけでなく、資料などを見て課題に取り組みましょう。

社会科 1年生 学習計画と評価基準について

節	学習時期	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界と日本の地域構成	4月～5月	緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。	世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
世界の人々の生活と環境	5月～6月	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。また、世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
世界の諸地域	6月～9月	世界各地で顕在化している地球課題の特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。また、アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。	アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州において、地域で見られる地球課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
歴史のとらえ方と調べ方	10月	日本の歴史の大きな流れや各時代の特色に関する様々な資料を収集・読み取りをし、年表などにまとめる。身近な地域の歴史について適切に資料など情報を収集し、年表などにまとめている。	歴史的な見方・考え方「時期や年代」「推移」「現在のつながり」に着目して、小学校で学習した人物や文化財、出来事などが時代区分とどのように関わるかを考察し、表現している。また、歴史的な見方・考え方「比較」「関連」や、時代的な背景や地域の環境、歴史と私たちのつながりに着目して、身近な地域の歴史の特徴を考察し、表現している。	身近な歴史や歴史上の人物、出来事などを調べたり考えたりする活動を通して、日本の歴史の大きな流れや時代の特徴に対して見通しを持ち、課題の解決に向けて学習しようとしている。
古代東アジアの成立と	10月～11月	世界の古代文明や宗教が生まれたこと、日本列島において人々の生活が始まり、やがて国家が形成されていった過程のあらましを、東アジアの動きと関連付けて理解している。	古代文明の特徴や宗教のおこり、日本列島における人々の生活の変化について、多面的・多角的に考察し表現している。	世界の古代文明や宗教のおこりへの関心を高め、古代までの日本の大きな流れに関する課題を意欲的に追究している。また、現代に残る古代の文化遺産に関心を高め、それらを尊重しようとしている。
武家政権の成長と	12月～1月	武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、中世の文化の特色などを、東アジア世界との交流を背景に理解している。また、中世の政治の展開、経済の発達と社会の変化、文化の広がりに関する諸資料を収集・選択して、読み取ったり、図表にまとめている。	武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、表現している。また、モンゴルの襲来、明や朝鮮との関わりなど東アジア世界との交流を、多面的・多角的に考察し、表現している。	武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界との交流に関する課題を意欲的に追究している。また、日本の伝統文化に対する関心を高め、今日に残る中世の文化や文化財を尊重しようとしている。
武家政権の展開と世界の動き	2月～3月	ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣の統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響からの課題、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係からの課題、また、武将や豪商などの生活文化の展開からの課題を見だし、多面的・多角的に考察し、表現している。	ヨーロッパ人來航の背景とその影響からの課題、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係からの課題、また、武将や豪商などの生活文化の展開からの課題を主体的に追究、解決しようとしている。
具体的な評価の方法		行動観察、発言、発表、パフォーマンステスト、レポート、単元テスト・定期テストなど	発言、発表、レポート、単元テスト・定期テストなど	行動観察、発言、発表、自己評価、振り返りシート、レポートなど

数学科 1 年生シラバス

1 数学科の目標

数学的活動を通して、論理的に考える力をつけることを目指す。

2 数学を学ぶ意義

実生活の中にある数字や式の意味を理解できるようになる。

物事を順序だてて考え、大切なことを理解し見失わないようになる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：数量や図形などについて決まりを理解することができる。 技能：問題を数字や式に表して、計算することができる。	思考：課題を解決するために、比べたり、決まりを見ついたり等することができる。 判断：今までの学習の中から今の課題を解決する手段を見つけることができる。 表現：自分がわかったことや、疑問点などを友達や先生にわかりやすく伝えることができる。	数学の楽しさや良さを生活や学習に生かそうとしたり、クラスメイトと一緒に課題を解決しようとし、学習を振り返って次の勉強をより良くしようとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ① 粘り強さ 例：数学の課題を粘り強く考え、あきらめずに解決しようと取り組むこと
例：友達の意見を聞き、自分の考えを深めること
- ② 自らの学習の調整 例：課題解決の過程を振り返って評価・改善をしようとしていること

5 数学の勉強アドバイス

- ① 学校で学習した内容は、ワークで復習しましょう。
- ② 文章のある問題は絵や図を書いたりして解くようにしましょう。

数学科 1年生 学習計画と評価基準について

節	学習時期	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 正の数・ 負の数	4月～6月下旬	正の数と負の数の必要性和意味を理解し、四則計算をすることができる。	正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
2章 文字の式	6月下旬～7月中旬	文字を用いることの必要性和意味を理解し、文字を用いて四則計算をしたり、法則を表したりすることができる。	文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
3章 方程式	7月中旬～9月	1元1次方程式の必要性和意味を理解できる。 簡単な1元1次方程式を解くことができる。	1元1次方程式について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	1元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
4章 変化と対応	10月～11月中旬	関数、比例、反比例、座標の意味を理解できる。 比例反比例を表、式、グラフに表すことができる。	比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
5章 平面図形	11月中旬～12月	基本的な作図の方法を理解できる。 平行、対象、回転の移動を理解できる。	平面図形について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	基本的な作図や図形の移動を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
6章 空間図形	1月～2月中旬	空間における直線や平面の位置関係を知ることができる。 様々な図形の長さや面積、体積を求めることができる。	空間図形について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
7章 データの活用	2月中旬～3月	ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解できる。 コンピュータなどを使ってデータを表やグラフに整理することができる。	データの分布について学んだことを生活や学習に生かすことができる。	ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討できる。
方法 具体的な評価の		・定期テスト・単元テスト・小テスト・授業での発言・レポート等の提出物	・定期テスト・単元テスト・小テスト・授業での発言・レポート等の提出物	・授業中の発言・レポート等の提出物・授業の振り返り

理科1年生シラバス

1 理科の目標

自然や様々な現象に関わり、見方や考え方を働かせながら、見通しをもって観察や実験を行う活動を通して、科学的に考えるために必要な力をつける。

2 理科を学ぶ意義

- ・生活の中にある事柄や現象について正しく学ぶことで、適切に判断し、行動できる。
- ・科学的に物事を考えることができるようになる。
- ・探究する能力や態度を身に付けることで、主体的、創造的に生きていく力を付けることができるようになる。

3 評価の観点について

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	知識：自然の様々な現象について理解する。 技能：科学的に考えるために必要な観察や実験に関する基本的な技能を身につける。	思考：課題に対して、科学的な根拠をもとに考えることができる。 判断：学習により身についた様々な実験方法や分析方法の中から、課題を解決するための正しい方法を決定することができる。 表現：観察や実験を通して自分がわかったことや、疑問点などを友達や先生にわかりやすく伝えることができる。	自然の様々な事柄や現象に進んで関わり、科学的に考えようとしている。

4 主体的に学習に取り組む態度について

- ① 粘り強さ 例：課題に対して、科学的に考え、あきらめずに取り組むこと
例：自分の考えをさらに深めるために、友達に聞いたり、共に考えたりすること
- ② 理科を学ぶ意義 例：学習したことと生活の中にある科学を結び付けていること
- ③ 自らの学習の調整 例：課題解決の過程を振り返って評価・改善をしようとしていること

5 学習のポイント

- ・学習の振り返りをするときには、めあてに対しての振り返りを書くようにしましょう。そして、「授業で分かったこと」は何なのか、また「授業を受けたがまだ分らなかったこと」は何なのかを表現しましょう。
- ・パフォーマンス課題では、単元で学んだことをもとに自分の言葉で他者にわかりやすく説明できるようにしましょう。

理科 1年生 学習計画と評価規準について

領域	学習時期	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の中にあふれる生命	4月	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについての基本的な考えやきまりなどを理解しているとともに、科学的に考えるために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の観察と分類のしかたについての観察、実験などを通して、いろいろな生物の同じところやちがうところを発見するとともに、生物を分類するための基準を見つけて表現しているなど、科学的に考えている。	生物の観察と分類のしかたに関する事柄や現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に考えようとしている。
いろいろな生物とその共通点	4月中旬～6月下旬	いろいろな植物や動物の共通点と相違点に着目しながら、植物の体の共通点と相違点についての基本的な考えやきまりなどを理解しているとともに、科学的に考えるために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	植物や動物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点やちがうところを発見するとともに、植物を分類するため基準を見つけて表現しているなど、科学的に考えている。	植物や動物の体の共通点と相違点に関する事柄や現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に考えようとしている。班での活動やペアワークの時に自分の考えを表現できている。
身のまわりの物質	6月下旬～10月下旬	身のまわりの物質の性質や様々な変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な考えやきまりなどを理解しているとともに、科学的に考えるために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	身のまわりの物質の性質や様々な変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化におけるきまりを見つけて表現しているなど、科学的に考えている。	身のまわりの物質の性質や様々な変化に関する事柄や現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に考えようとしている。
光・音・力による現象	10月下旬～1月上旬	光・音・力に関する事柄や現象を日常生活や社会と関連づけながら、それらの基本的な考えやきまりなどを理解しているとともに、科学的に考えるために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	光・音・力について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、それらのきまりや関係性を見つけて表現しているなど、科学的に考えている。	光・音・力に関する事柄や現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に考えようとしている。
活きている地球	1月上旬～3月	大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事柄や現象と関連づけながら、大地の活動や災害についての基本的な考えやきまりなどを理解しているとともに、科学的に考えるために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	大地の活動や災害について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、大地の活動のきまりや関係性などを見つけて表現しているなど、科学的に考えている。	大地の活動や災害に関する事柄や現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に考えようとしている。
具体的な評価の方法		行動観察、発言、発表、パフォーマンス課題、振り返り、単元テスト・定期テストなど	発言、発表、パフォーマンス課題、振り返り、単元テスト・定期テストなど	行動観察、発言、発表、自己評価、振り返り、パフォーマンス課題、など